

# 第25回 MQI活動

2020年度  
MQI統一主題

つなげる ～自と他の関係を次の段階へ～



発行(公財)練馬総合病院MQI推進委員会  
〒176-8530 練馬区旭丘1-24-1  
TEL03-5988-2200(代)

## 2020年度 MQI活動フォローの会 院長・推進委員長 柳川 達生

各チーム改善活動で新たな業務、仕組みを作りました。その仕組みが継続されているでしょうか？継続されている活動は、業務をどの部署に引き継ぐか等の歯止め・標準化がしっかり決められています。決められていても業務変更に伴ない職員への周知あるいは教育も必要となります。業務が継続していても成果が思うようでないこともあります。その要因として、改善前の業務があまり悪い状況ではなくテーマ選定が適切でなかったか、現状把握が不十分であった可能性があります。原因追求が不十分であれば対策は的をはずれてしまいます。すなわち継続フォローの会ではチーム関係者だけでなく、推進委員も活動方法を見直すために意義があります。もちろん来年度以降は、「いい活動だった、素晴らしい」と全チームいえるようになることが目標であることは言うまでもありません。

## 2020年度 MQI 継続フォローの会 (2021/3/15・22)

|  | テーマ・チーム名・主体部署/現在の状況 及び 今後の活動   |
|--|--|
|  | <p><b>病棟や救急カートにある検体採取容器を管理する仕組みを作る<br/>3Nと愉快的仲間たち・臨床検査科</b></p> <p>発表大会後も大きな問題はなく、活動成果を維持している。2021年に入り、定期定数在庫補充部署に、「発熱外来」と「診療所」を加えた。また、5階病棟からの要望を受けCD毒素検査容器(F-1)を定数在庫に追加するなど、活動で設定した歯止めを業務に落とし込み標準化している。今後も、検体採取容器の管理業務を適宜改善しながら継続するよう、職員皆様のご理解ご協力をお願いします。</p> |
|  | <p><b>内視鏡検査増加にともなう業務の見直し<br/>アップル・内視鏡センター</b></p> <p>内視鏡センターでは内視鏡検査数増加に対する業務の見直しをして成果を上げ、現在、新型コロナウイルスによる検査数の増減に対応しながら、安全に検査を実施しております。今後さらに検査数の増加が予想される場合は、未解決の課題に取り組んでいく予定です。</p>  |
|  | <p><b>病名欄への病名登録を確実にする<br/>ナインズ・医療情報管理室/医事課</b></p> <p>フォローの会にて現在の状況を報告させて頂きました。現状、DPC入院病名登録率がほぼ100%近い状態でした。病名登録の重要性が浸透していると成果を実感することが出来ました。残った今後の課題に対しても、先生方にレセプトチェックをお願いすることで対応していきます。今後も継続して活動を続け、病名登録率の向上に努めていきます。</p>                                      |
|  | <p><b>退院支援に必要な情報を<br/>多職種で共有する仕組みを再構築する<br/>Team百折不撓・看護部</b></p> <p>内科患者を対象に退院支援管理表2020を活用し多職種で情報を共有しています。関連部署から、全診療科で退院支援管理表を統一して使用したいと意見を頂いています。全診療科で使用開始するために各部署に私たちが説明に伺います。ご協力をお願いします。</p>  |

## MQI【3年目】継続フォローの会（2021/2/1・22）

### 3年目継続フォローの会開催

MQI活動は、その年度のMQIチームが解散した後、活動の成果や活動で作成した業務手順が普段の業務の中に定着し、さらに発展していくことが理想です。3年目フォローの会は、活動報告書を作成した時の「歯止め・標準化」や「今後の課題」とした内容が、現在どうなっているかを再確認し、課題が解決できないままであれば、さらに検討する機会になります。新入職員の皆さまにも、ぜひ、以前の活動を知ってもらいたいと考えます。医療を取り巻く環境の変化に合わせてPDCAを回し、さらに医療の質を向上させるべく、活動を発展させましょう。（MQI推進委員会副委員長 金内幸子）

| 活動主体部署/テーマ  | 発表時の「歯止め・今後の課題」のその後について   |
|---|---|
| <p><b>看護部</b><br/>「入院患者への災害時初動対応の体制を構築する」</p>                       | <p>東日本大震災から10年が経ち、また新型コロナウイルス感染症の大流行を受けた年にフォローの会で活動の振り返りが出来た事は非常に意義があると感じ、身が引き締まる思いです。BCP担当者と防災委員会とで協力して大規模災害時の対応マニュアルを改訂し、情報共有していますが、MQI活動のみならず普段から震災やトラブルに対応できる力をつけていく事が重要となります。活動後、2018年の非常食の賞味期限切れに合わせて非常食提供説明会を実施しましたが2022年予定の非常食入れ替え後に再度職員に周知することが必要です。今後栄養科とともに計画し実施できるようにしたい。</p> |
| <p><b>検査科</b><br/>「検査について患者に分かりやすく伝える」</p>                          | <p>予約センターのマニュアル、検査の患者説明資料改訂、及び患者用のパンフレットを作成・設置した活動でした。当時の活動成果は現在も継続して運用されており、必要に応じた説明資料の改訂も行われています。しかし、予約センターのマニュアルや、患者用パンフレットの内容については内容の見直しに関する検討が行われていません。年1回程度、見直しを行う必要があると思われ、令和4年度中に見直しを行いたいと思います。</p>   |
| <p><b>内視鏡</b><br/>「入院患者の内視鏡検査及び検査後管理を行うための情報伝達・検査準備に関する体制の見直し」</p>  | <p>現在病棟で使用している内視鏡検査前チェックリストを、この活動で作成しました。みなさんのおかげで、チェックリストの使用率は100%となり、検査時の申し送りは以前より円滑になりました。一昨年にERCP用のチェックリストも作成しましたが、こちらはあまり知られていないのか使用率が低いので、今後周知徹底していきます。万全な準備が安全な検査の要です。今後も内視鏡検査を円滑かつ安全に行える環境づくりを行っていきますので、ご協力よろしくをお願いします。</p>   |
| <p><b>医事課</b><br/>「1.外来会計における患者の待ち時間短縮の検証<br/>2.品質表による医事課業務の検討」</p> | <p>品質表を活用し、医事課として改善すべき点は何なのかを見直す良い活動であったと考えます。重要な要因として、会計の正確性や説明、会計業務習得者の増員があります。現在は、入職3年以上の医事課職員はすべて会計業務に配置でき、適宜会計についての説明も行っています。しかしながら、接遇面については改善すべき課題が多くあります。今後も、医事業務全般をはじめ、接遇面も対応できる職員を育成していけるよう精進してまいります。</p>  |
| <p><b>リハビリ</b><br/>「目標設定等支援・管理料の運用方法を見直す」</p>                       | <p>目標設定支援・管理料の運用方法を見直し活動でした。現在も継続して行っており、ほとんど業務に落とし込むことができています。運用面では医師が能動的に署名や説明をしてもらうことが難しかったため、リハビリ科にて適宜主治医へ管理シートを直接渡すようにしたことで、より迅速に大対応できるようになり、件数も少しずつ増加していきましました。しかしまだ完全に定着したとは言い難いため、今後も運用面を定期的に見直ししていきたいと思っております。</p>   |
| <p><b>薬剤科・地連</b><br/>「退院支援の流れを整備し、院内外の多職種間で必要な情報を共有する」</p>          | <p>「退院支援の流れを整備し、院内外の多職種間で必要な情報を共有する」をテーマに活動しました。紙運用だった退院支援チェックシートをデータベース化し、多職種で情報共有する仕組みをつくり連携を強化を図りました。退院時カンファレンスに薬剤師・療養士が参加するようになったのもこの活動が契機となっています。しかし、歯止め標準化であげたマニュアル登録と周知に関して一部の部署が活動終了後に継続できず本年度看護部が退院支援を見直す活動を行いました。今後は本活動と看護部の活動結果を基に多職種が使いやすいデータベースに改善していきます。</p>                |